

経済港湾委員会 北九州港視察 ＜説明用資料＞

＜視察スケジュール＞

時間	場所・内容
09:30 ↓ 10:00	本庁発 (移動: 30分) 響灘臨海工業団地着 (ブリヂストン北九州工場付近)
10:00 ↓ 10:20	① 響灘地区視察 ※所要: 20分
10:20 ↓ 11:20	響灘臨海工業団地発 (移動: 60分) 太刀浦コンテナターミナル (第1ターミナル管理棟) 着
11:20 ↓ 11:40	② 門司地区視察 ※所要20分
11:40 ↓ 12:00	太刀浦コンテナターミナル発 (移動: 20分) マリナクロス新門司着 (トヨタ自動車物流センター付近)
12:00 ↓ 12:30	③ 新門司地区視察 ※所要: 30分
12:30 ↓ 13:00	マリナクロス新門司発 (移動: 30分) 本庁着



響灘洋上風力総合拠点の形成に向けて

グリーンエネルギーポートひびき事業

響灘地区に広がる 約2,000haの埋立地は
 本市の貴重な財産

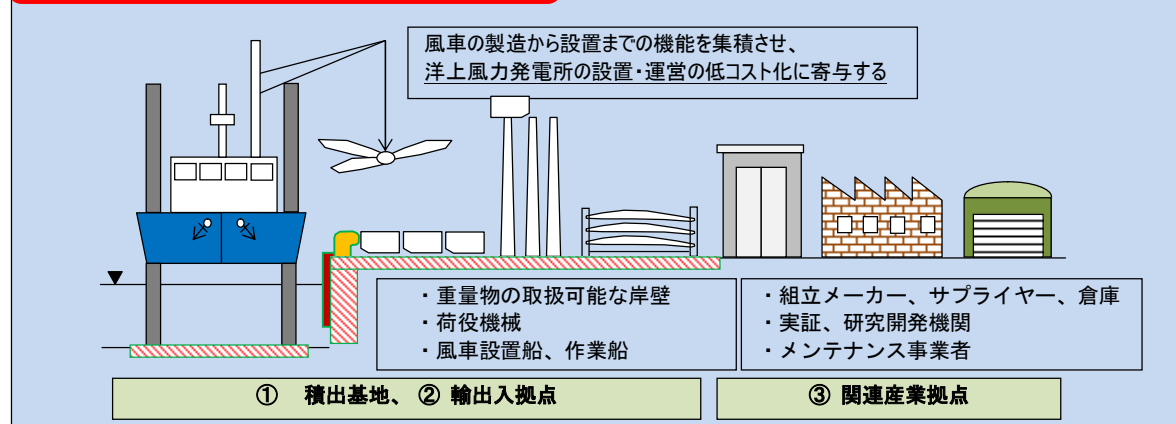
環境・エネルギー産業の集積を目指し、「グリーンエネルギーポートひびき」事業に着手
 (平成22年度～)

【風力産業の特徴】

今後の普及が見込まれる成長産業であるとともに、約2万点の部品から構成されるなど、裾野が広く、市内企業の高度な製造技術が活かせる産業で雇用の創出が期待できる。

響灘地区において「洋上風力の総合拠点」の形成を目指す。

洋上風力の総合拠点・機能イメージ



洋上風力総合拠点の完成イメージ図



洋上風力の総合拠点形成に向けた響灘地区の現状

- 平成25年5月に実証研究ゾーンの公募を実施、事業者が決定
 (株北拓、日本再生可能エネルギー推進機構、自然電力株)
- 現在は洋上風車の試験・小型風車のフィールド試験場の開設準備中
- 風車部品の物流拠点や、メンテナンス拠点の立地計画も進行中
 (風車のメンテナンス訓練施設開設、株北拓)



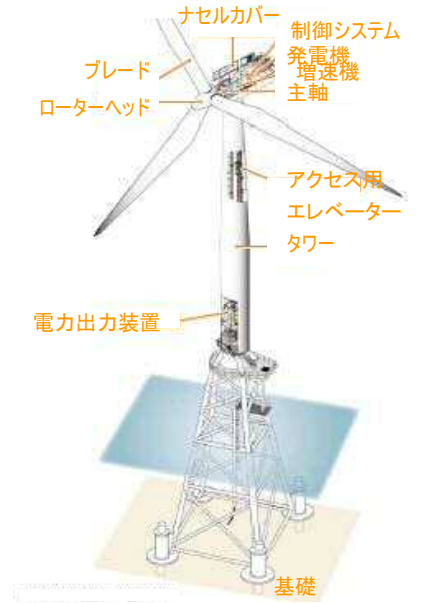
北九州市の取り組み

- 平成27年度内に公募対象エリアの適地候補(案)を選定
- 平成27年3月に環境省が「洋上風力発電モデル地域」に選定
- 平成28年に発電事業者(コンソーシアム)に対する公募予定



市内企業の参入可能性

市内企業が参入可能な業種		
風車	ナセル	発電機、IPV-タ、増速機、主轴、ベアリング
	ブレード	組立て、塗装
	タワー	組立て、防錆処理、塗装
	基礎	組立て、防錆処理、塗装
	変電設備	製造(電気設備他)
	ケーブル	製造
工事	調査	調査船・航空機
	設置	設置船、作業船、敷設船、水中ロボット
	撤去	作業船、警戒船
O&M	維持管理	作業船、交通船、リフト
	研修	O&M研修、洋上作業員訓練
物流	海運	輸送、積卸し、積み込み、艀装、積出し
	陸運	輸送、積卸し、積み込み、積出し
	保管	ヤード保管、倉庫保管、通関、検数



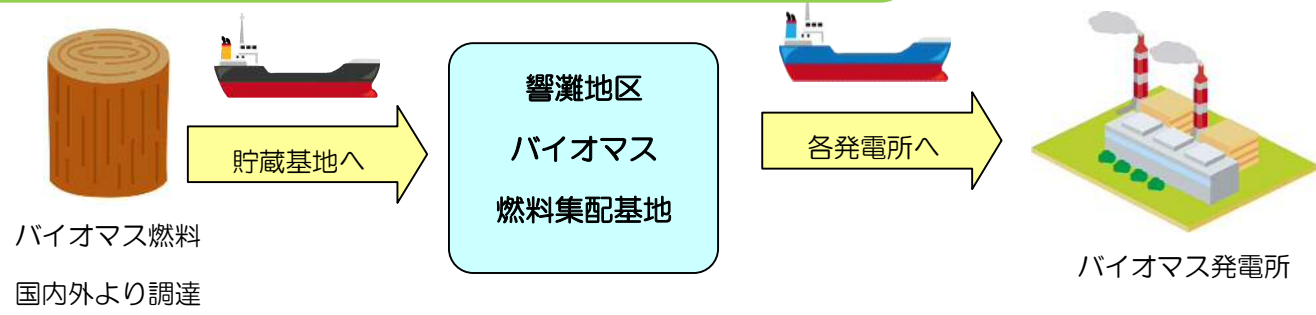
洋上風車の例(着床式)

響灘地区におけるバイオマス発電関係の立地に向けて

バイオマス燃料集配基地、及びバイオマス発電所の建設

充実した港湾・電カインフラや広大な産業用地を有し、大規模な再生可能エネルギー施設の立地に適した響灘地区において、バイオマス発電所用の燃料を輸入/ストックし、国内の各発電所に供給する日本最大の「**バイオマス燃料集配基地**」と、このバイオマス燃料を活用する「**バイオマス発電所**」の建設を促進する。

港湾インフラの利活用
 地域経済の振興
 雇用の創出



北九州市への貢献

■投資と雇用の効果

施設	基数	発電規模	投資額	雇用者数
バイオマス燃料集配基地	—	—	30億円	50人
バイオマス発電所				
オリックス	1基	11.2万kW	200億円	20人
F・パワー	1基	11.2万kW	200億円	20人

市内企業の参入可能性

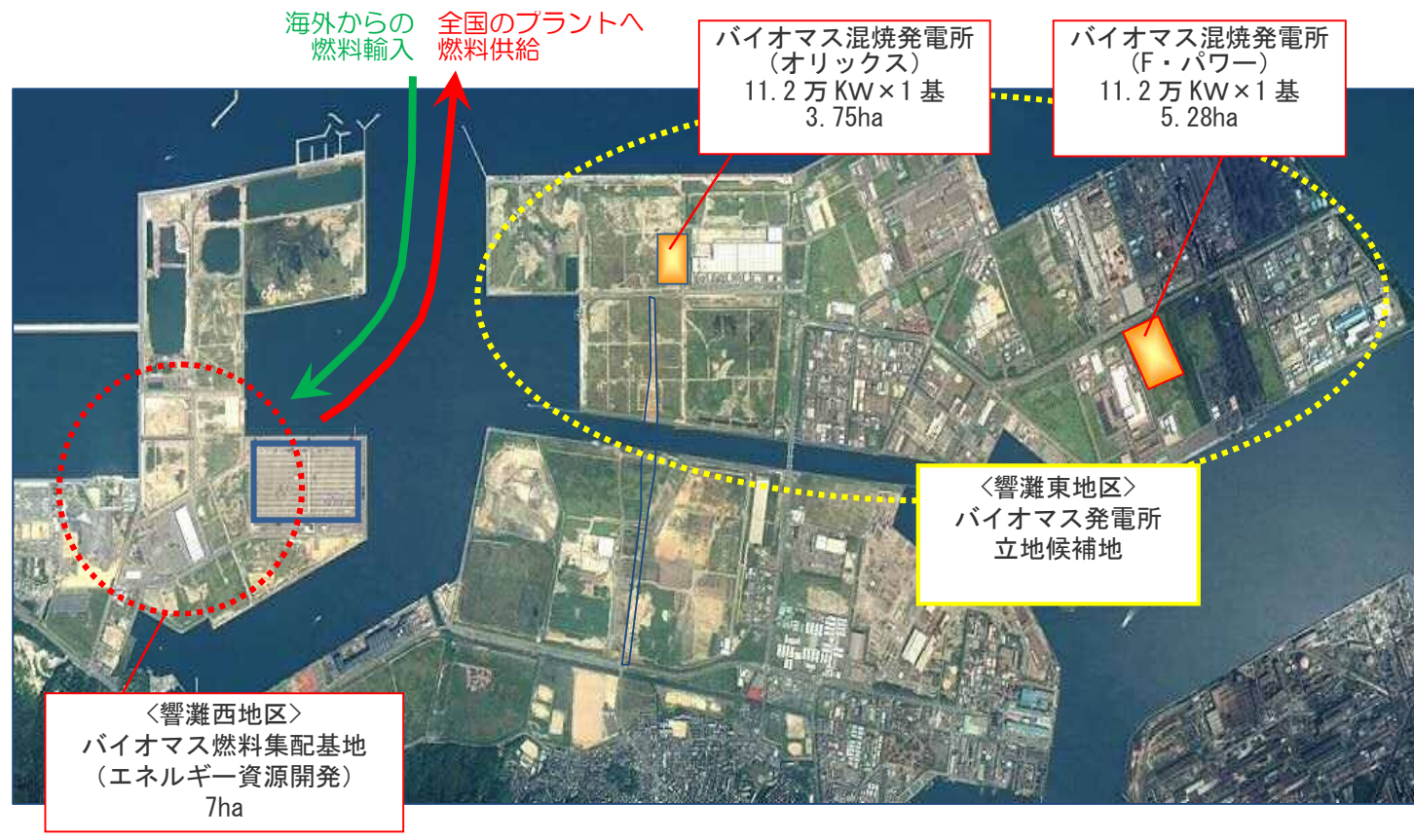
■バイオマス燃料集配基地

- 基地の建設工事**
- 調査・設計 … 調査・測量・設計等（貯蔵棟、外構、周辺整備）
 - 土木・建築工事 … 資材調達、機材リース、施工（下請含む）、工事関係者の飲食・宿泊
- 基地の運営**
- 燃料の保管 … 事務処理、通関、検数
 - 施設の保安 … 貯蔵棟の保守点検、セキュリティ、消防設備
- 燃料の運搬 [取扱量 200万t/年]**
- 海上輸送 … 輸送、積卸し、積み込み、艀装
 - 陸上輸送 … 輸送、積卸し、積み込み

■バイオマス発電所

- 発電所の建設工事**
- 調査・設計 … 調査・測量・設計等（発電所施設、外構、周辺整備）
 - 土木・建築工事 … 資材調達、機材リース、施工（下請含む）、工事関係者の飲食・宿泊
- 発電所の運転管理**
- 発電所の運転管理 … 事務処理
 - 発電所の保安 … 発電所の保守点検、セキュリティ、消防設備
- 燃料の運搬（集配基地→プラント）**
- 陸上輸送 … 輸送、積卸し、積み込み、車両の保守点検

関係施設の配置計画図（計画中含む）





旧・田野浦コンテナターミナル
 (現・自動車物流センター)

太刀浦コンテナターミナル



北九州港の歴史

- 明治22 (1889) 門司港が国から石炭等5品目の特別輸出港の指定を受ける (開港)
 - 門司港：国際貿易港
 - 小倉港：国内貿易港
 - 洞海港：石炭や工業製品の積出港
- 明治29 (1896) 石炭輸出量が日本一
- 昭和39 (1964) 3港が合併して北九州港管理組合を設立 (1港化)
- 昭和46 (1971) 田野浦コンテナターミナル供用開始 (西日本初)
- 昭和49 (1974) 北九州市が港湾管理者となる
- 昭和54 (1979) 太刀浦コンテナターミナルの一部供用開始 (昭和63全面供用開始)
- 平成17 (2005) ひびきコンテナターミナル供用開始



更なる物流拠点化（新門司地区）

◆ 概要

従来より「陸」「海」「空」の物流基盤が充実している北九州市だが、これから平成28年にかけて、東九州自動車道の開通、新門司のフェリーの大型化などにより、物流拠点都市としての優位性がますます高まる。これを好機ととらえ、より広域からの海上貨物及び航空貨物の集貨（物流振興）と物流センターなど新規企業立地による創貨（産業振興）に取り組み、「更なる物流拠点化」を推進する。

◆ 東九州自動車道の開通

平成27年3月、県内の一部区間（椎田南～豊前）を除き、本市から宮崎市まで開通し、残りの区間も平成28年春までに開通する予定である。

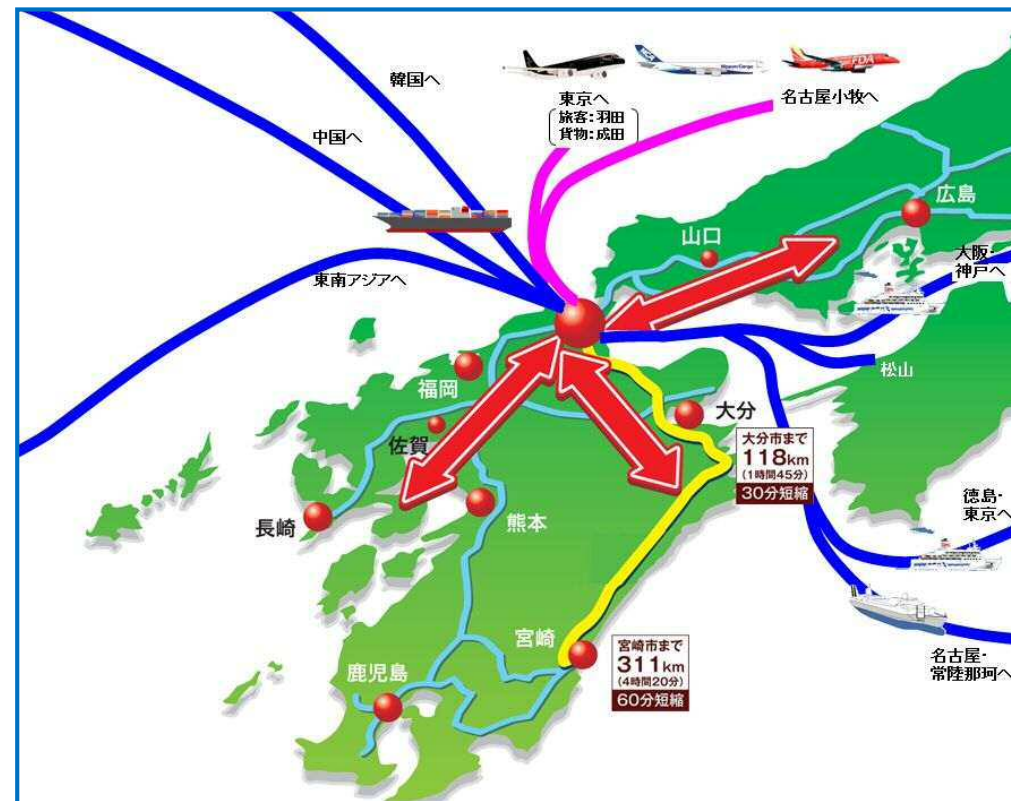
（1）整備状況

	開通（予定）区間	距離	開通（予定）時期
開通済	行橋 IC（福岡県）～みやこ豊津 IC（福岡県）	7.4km	平成26年12月13日
	豊前 IC（福岡県）～宇佐 IC（大分県）	21.1km	平成27年3月1日
	佐伯 IC（大分県）～蒲江 IC（大分県）	20.1km	平成27年3月21日
未整備	椎田南 IC（福岡県）～豊前 IC（大分県）	7.2km	平成28年春（努力目標）

（2）期待される効果

大分・宮崎方面への移動時間が大幅に短縮され、アクセスが向上する。

また、本州・東九州・西九州の3方向に伸びる高速道の結節点となるとともに、中国・四国地方を合わせた西日本エリアの中心となることで、本市の拠点性がますます高まる。



◆ 新門司地区のフェリーの大型化

西日本最大級のフェリー基地・新門司地区からは、関東・関西方面に、毎日5便（往復）の長距離フェリーが就航しており、3社の投入船舶合計12隻中の8隻が、平成27～28年にかけて大型船に更新される計画である。

（1）新造船の投入計画

フェリー名	行先	更新隻数	投入時期
阪九フェリー	泉大津 神戸	4隻のうち2隻 (更新完了)	平成27年1月22日 平成27年4月21日
名門大洋フェリー	大阪南港	4隻のうち2隻	平成27年9月 平成27年11月
オーシャン東九フェリー	徳島・東京	4隻のうち4隻	年内～平成28年9月 (予定)

（2）投資額：合計450億円以上

（3）輸送量の増強効果：25%増



◆ 自動車物流拠点化

北部九州は自動車産業の一大集積地となっており、北九州港は、完成自動車及び自動車部品の取扱量を増やしてきた。特に、新門司地区は、トヨタの自動車物流センターに加え、中古車輸出用モータープールが相次いで開設されるなど、物流拠点としてのポテンシャルの高さが注目されている。

（1）トヨタの物流拠点

トヨタ新門司自動車物流センターは、博多港から新門司港に機能を移し、完成自動車及び自動車部品の移入・移出拠点として平成16年11月から稼働を開始した。

完成自動車は、名古屋地区で生産された国内（九州・山口地区）向け新車を陸揚げするとともに、トヨタ九州（宮若市）で生産された輸出用新車を名古屋向けに船積みし、名古屋経由で輸出している。

自動車部品は、主に、名古屋地区から海上輸送され、トヨタ九州向けに陸送している。

これまで、取扱量は堅調に推移し、名古屋地区に次ぐ国内第2の物流拠点となっている。

（2）中古車の物流拠点

アジア・アフリカ・ニュージーランドなどに向けた輸出用中古車を一時的に保管するためのモータープールが新門司地区に集積している。平成26年3月には、ECL エーゼンシーが、同年12月には地元港運事業者のジェネックが相次いでモータープールを開設し、拡張の計画もある。